

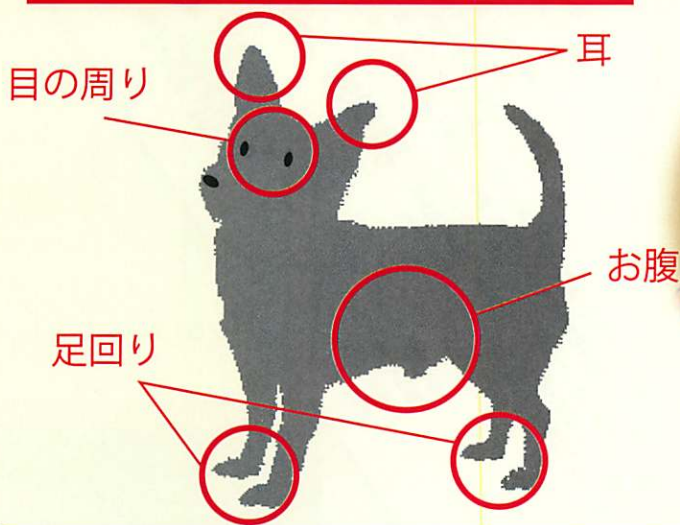
ペットのマダニによる 感染症に注意しましょう!!



☆予防対策: マダニにかまれないようにしましょう!

- 日頃から、ペットには、動物病院と相談してマダニ予防薬を処方してください。
(予防薬は、飲み薬、スポット、スプレー、首輪タイプなどあります)
- 犬は、散歩から帰った後、耳、目の周りなど顔、お腹、足回りなどにマダニが寄生していないか確認ください。(目の細かいクシをかけることも効果的です)

要チェック! ダニの寄生しやすい主な部位!



☆猫は室内飼育を徹底しましょう

猫の屋外での放し飼いは、ダニの寄生だけではなく、交通事故、迷子、猫の感染症(猫白血病、猫エイズなど)など危険がいっぱい!



参考(京都府・京都市平成27年度データ)

●交通事故死した猫の推計頭数

6,730 匹

●保護・引き取られた猫の殺処分頭数

1,148 匹

☆ペットがマダニにかまれたら

マダニが皮膚内に食いついている場合は、無理に引き抜かず、動物病院へ! 発熱などの症状が見られた場合も動物病院を受診してください。



【ペットとは正しい距離を保ちましょう】

ペットには、さまざまな動物由来感染症も知られています。口移しでエサを与える・ペットを布団に入れて寝るなどの濃厚な接触は避け、ペットとは節度あるつきあいをしましょう。

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) とは・・・裏面へ→

マダニにかまれて感染する新しい感染症 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

ごぞんじですか？

2017. 7. 25 朝日新聞

マダニ媒介感染症 野良猫にかまれ発症？ 死亡

西日本で昨夏 厚生労働省 注意呼びかけ

厚生労働省などは24日、野良猫にかまれて感染する新しい感染症、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の発生が確認された事例を踏まえ、野良猫を飼育する飼い主や、野良猫と接触する可能性がある人に対し、注意を呼びかけた。SFTSは、マダニに咬まれて感染するウイルス性の感染症で、発熱、全身倦怠感、おう吐、下痢などの症状が現れる。重症化すると、血小板が減少し、出血傾向が現れる。また、死亡する事例もある。厚生労働省は、野良猫を飼育する飼い主や、野良猫と接触する可能性がある人に対し、注意を呼びかけた。SFTSは、マダニに咬まれて感染するウイルス性の感染症で、発熱、全身倦怠感、おう吐、下痢などの症状が現れる。重症化すると、血小板が減少し、出血傾向が現れる。また、死亡する事例もある。厚生労働省は、野良猫を飼育する飼い主や、野良猫と接触する可能性がある人に対し、注意を呼びかけた。



2017. 7. 25 読売新聞



吸血後のマダニ(国立感染症研究所提供)

Q SFTSとは？

A マダニに咬まれて感染するウイルスによる病気です。症状は発熱、全身倦怠感、おう吐、下痢などです。

Q 患者はどれくらい発生していますか？

A 日本では、2013年(平成25年)に初めて患者発生が報告されて以来、西日本を中心に既に患者280名、うち死者58名が確認されています。

(国立感染症研究所ホームページ平成29年7月26日現在)

Q ネコやイヌからSFTSウイルスに感染する危険性がありますか？

A 健康なネコなどからヒトに感染することはありません。また、屋内のみで飼われているネコについては、SFTSウイルスに感染する心配はありません。体調不良のネコやイヌからSFTSウイルスが検出されたこと及び、発熱、食欲喪失などの症状がある屋外のネコにかまれたヒトがSFTSを発症し、亡くなられた事例があったことをふまえ、2017年(平成29年)7月厚生労働省から注意がよびかけられています。

※マダニには、SFTS以外、日本紅斑熱、ライム病等の感染症も媒介することが知られています。

SFTS について詳しくは厚生労働省のホームページへ

SFTS 厚生労働省

検索

ワイルドなあなた、 蚊・ダニから狙われていますよ。

薄着だと
蚊やダニに
か
咬まれちゃうぜえ〜

おそろいじゃなからか

おそろいじゃなからか

ダニと蚊ちゃん(杉山英司)

蚊・ダニに咬まれないようにしようぜえ〜

蚊やダニが媒介する感染症から身を守るためには、蚊やダニに咬まれないことが大切です。

屋外で活動する時は


- 肌の露出を少なくする(長袖・長ズボンなど)
- 虫除け剤を使用する

詳細はウラへ

蚊媒介感染症
厚生労働省



ダニ媒介感染症
厚生労働省



蚊・ダニの活動が盛んになる春から秋にかけて、キャンプ、ハイキング、農作業などで注意しよう。

蚊・ダニに咬まれないために

感染症

蚊が媒介

日本脳炎、デング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱など

ダニが媒介

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、ツツガムシ病、ライム病など

蚊・ダニに咬まれないポイント

蚊・ダニ共通対策

- 肌の露出を少なくする
 - 長袖・長ズボンを着用する
 - 足を完全に覆う靴を履く (サンダルなどは避ける)
- 明るい色の服を着る
- 虫除け剤を使用する

ダニ対策

- 帽子・手袋を着用し、首にタオルを巻くなど
- シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる

*野外活動後は入浴し、ダニに咬まれていないか確認しましょう。特に、首、耳、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏などに注意しましょう。



※熱中症にも注意しましょう

蚊の発生を抑える

- 不要な水たまりをなくす
例：屋外に置かれた植木鉢の受け皿、放置された空き缶やペットボトル、野積みされた古タイヤなど
- 詰まった排水溝などを清掃する



ヒトスジシマカ (国立感染症研究所)

ヒトスジシマカは、小さな水たまりを好んで産卵します。日本に広く生息するヒトスジシマカはデング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱などを媒介します。

海外で蚊に刺されたとき

蚊に刺されて体調を崩した場合、医療機関を受診し、渡航歴と蚊に刺されたことを伝えましょう。

ダニに咬まれたとき

無理に引き抜こうとせず、皮膚科などの医療機関で処置(ダニの除去、洗浄など)をしてもらいましょう。

ダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱などの症状が認められた場合は医療機関で受診しましょう。

【受診時に医師に伝えること】

- ① 野外活動の日付け、② 場所、③ 発症前の行動



その他できること

「ダニ」にご注意ください

山や草むらでの野外活動の際は、ダニに注意しましょう

春から秋にかけてキャンプ、ハイキング、農作業など、山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。

野山に生息するダニに咬まれることで

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、つつが虫病、ライム病などに感染することがあります。

ダニに咬まれないためのポイント！

●肌の露出を少なくする

⇒帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等

●長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する

⇒シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中

●足を完全に覆う靴を履く

⇒サンダル等は避ける

●明るい色の服を着る（マダニを目視で確認しやすくするため）

* 上着や作業着は家の中に持ち込まないようにしましょう

* 屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認をしましょう

特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）などに注意



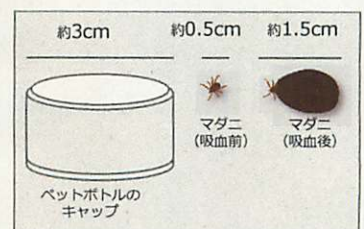
ダニに咬まれたときの対処法

●無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらいましょう。

●マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

【受診時に医師に伝えること】

①野外活動の日付け、②場所、③発症前の行動



ダニ媒介感染症（厚生労働省）

各地域のダニ媒介感染症の状況については各自治体HPも参考にしてください